城下町 続ぶらり 歴史探訪

第２回

# 官軍墳墓の地・堀尾啓助（ほりおけいすけ）の墓

（福田町二丁目）

激動の時代を生きた堀尾啓助。輪王寺墓地の南東の角にひっそりと眠っています。

今回は、福田町二丁目の輪王寺にある堀尾啓助の墓を訪ねました。戊辰戦争で戦死した米沢藩士の墓ですが、その隣には「官軍墳墓の地」の標柱が建っています。なぜ新政府軍と戦った米沢藩の藩士が官軍なのか、明治維新期の複雑な歴史を物語る珍しい史跡です。

## 米沢藩降伏後に起きた悲劇

啓助は米沢藩士・堀尾保助（後に重興（しげおき））の長男で、明治元年（１８６８）は19歳という若者でした。前回も触れたように、戊辰戦争において米沢藩は奥羽越列藩同盟の主軸として新政府軍と戦いますが、次第に戦況が悪化し、土佐藩などの斡旋で降伏しました。正式な降伏は９月11日で、上杉茂憲が新発田で仁和寺宮（にんなしのみや）に謝罪し、降伏が受け入れられました。

降伏後、米沢藩は新政府軍から会津や庄内への出陣を命じられますが、一方では仲間であった列藩同盟の諸藩に対して降伏の斡旋・説得を行いました。

その際、盛岡藩への使者に命じられたのが堀尾啓助と松本誠蔵（まつもとせいぞう）（31歳）。二人は役目を果たし帰路に就きますが、９月22日に仙台藩領の柴田郡野上宿（宮城県川崎町）で仙台藩士たちに襲われ、翌日死去しました。仙台藩も降伏を検討していた時期で、末端まで指令が伝わらない混乱時に起きた悲劇でした。

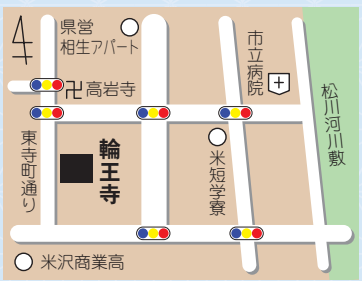
## 慰霊と名誉回復の運動

米沢藩は二人の死を悼み、弔慰を伝え10両の功労金を贈りました。また、二人は新政府軍から了解を得た使者であることから、官軍戦没者として慰霊すべきとの運動が始まります。明治３年、米沢藩は政府に「国事」の戦死者として表彰を願いました。その願いは却下されましたが、米沢では墓の側に「官軍墳墓の地」の標柱が建てられたのです。

## 靖国神社に合祀（ごうし）―坂本龍馬より早く

その後も名誉回復の運動は続き、明治８年には東京招魂社（現在の靖国神社）への合祀願いが置賜県や上杉茂憲から提出されました。その願いが叶ったのは明治12年のこと。戊辰戦争前後に遡（さかのぼ）って行われた最初の合祀でした。

その後、明治16年に坂本龍馬などが合祀されています。禁門の変で京都御所を守って戦死した会津藩士が靖国に合祀されたのは、大正４年のことでした。




## 表紙解説

**秋色ロードを駆け抜けて　米沢おしょうしなハーフマラソン大会（10月13日）**

体育の日、14回目となる「米沢おしょうしなハーフマラソン大会」が開催されました。ファミリー（２km）からハーフ（21.0975km）のレース31種目に、市内外のランナー約1,100人が参加。秋色が深まってきた米沢で健脚を競いました。

広報よねざわ　昭和27年４月28日創刊　No.1459
発行：米沢市　編集：企画調整部秘書広報課
〒992-8501 米沢市金池五丁目２番25号 ☎0238-22-5111　印刷：㈱青葉堂印刷